

ウシオの今と未来をお伝えする

P R I S M

第49期中間報告書

[2011年4月1日～2011年9月30日]

2011年11月発行

株主・
投資家の
皆さまへ



光のものがたり
あらわ
光で現す。

CONTENTS

- | | | |
|------------------|-------------------|----------|
| 2 光のものがたり | 8 セグメント別の概況 | 12 連結決算 |
| 4 光テクノロジー&フロンティア | 10 第49期第2四半期の事業概況 | 14 株式の状況 |
| 6 株主の皆さまへ | 11 グループトピックス | 15 会社概要 |

USHIO

ウシオ電機株式会社

あらわ 光で現す。

光で創り出す、もうひとつの現実世界ーバーチャルリアリティー

あらわ・す【現す】

今まで見えなかったものを外に出して見えるようにする。実態を明らかにする。

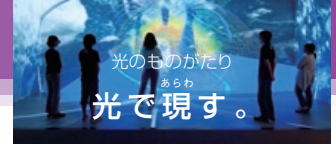
ーこの言葉を聞いて、皆さんはどのようなものを想像するでしょうか？ 近未来を描いた3Dシネマ、最新型の体感ゲーム、もしかしたら、身体の内部を映し出すCTスキャンやレントゲンを思い浮かべる方もいらっしゃるかも知れません。今、最新のデジタル映像技術の中で幅広い分野から注目を集めているのが、現実の世界で見たり体験できないものを映し出す「バーチャルリアリティ (Virtual Reality)」です。

■ 情報を可視化して現す

「バーチャルリアリティ (VR)」とは、コンピュータで処理した情報を立体的にビジュアルで再現し、それがあたかも現実のように感じることができる技術です。私たちが物体などを認識する際、その物体の大きさや距離など、目から入った情報は、脳内でデータ(情報)として処理されています。聴覚や感覚も同じで、例えばその場に本物の物体がなくても、視覚や聴覚など、感覚につながるデータさえ脳に伝達できれば、「そこに本物の物体がある」と脳は認識(勘違いといってもいいかも知れません)するのです。

■ VRならではの「没入感」と「双方向性」

では、最近流行りの3DシネマとVRとでは、何が違うのでしょうか？ 3Dシネマは、投影するスクリーンが平面で、私たちは一定方向から、あらかじめ決められた内容を見ているだけですが、VRの場合は、周囲をスクリーンで囲み、その中で私たちの動きに応じて映像がリアルタイムに変化します。この「没入感」と「双方向性」が、他の映像表現と大きく異なるところ

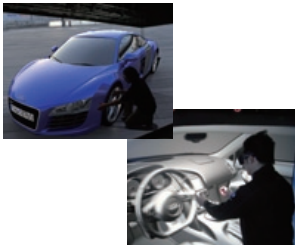


です。例えば、センサーがついているグローブをはめれば、VR上の自動車のエンジンルームを開けることができ、ボンネットや部品の重さを感じながら、実際に自分の手で部品交換をシミュレートする、ということもできます。コンピュータがどんなに進歩しても、やはり人間の五感で把握して初めて分かることがあるのです。

■ 新車開発から人体のヒミツまで

VRはゲームや映像アミューズメントでの使用が一般的と思われがちですが、実は、航空宇宙や医療、製造・建築・土木、学術研究など、数多くの分野で活用されています。例えば、自動車の新車開発や住宅、造船、プラント建設などでは、これまで設計図や模型から空間の広さや高さ、デザインなどを推量していましたが、CADデータを変換したVR用映像を利用することで、よりリアルに体感できるだけではなく、シミュレーションにかかる時間やコストを削減できるのです。

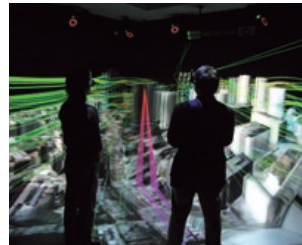
また流体力学の三次元解析データをもとに、ビルの間を通り抜ける風の流れを可視化したり、ヒトゲノム(DNAの二重らせん構造)の膨大なデータをビジュアル化することで、土木工学や新薬開発など、最先端の研究開発をサポートしています。



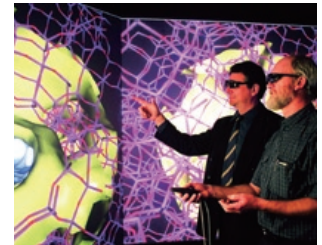
車体の外観デザインだけではなく、ハンドルや計器類の操作性・可読性のレビューも



モックアップを作って検証できない大型船舶の内部構造などを、設計段階でレビュー



土砂災害などのシミュレーションやヒートアイランド現象の解析なども立体視化



医学、薬学、バイオテクノロジーの分野でも、VR技術の活用が進んでいる

■ VRだけじゃない、空間・映像表現

さまざまな空間・映像表現において、VRをはじめ、プロジェクタを中心とした映像システムを核に、ソフトからハード、システム構築までをトータルに提供しているのが、ウシオグループのクリスティ・デジタル・システムズです。

夢をかなえるトータル映像ソリューション

プロジェクトからソフト開発、システム構築まで

近年の映画館のデジタル化や3Dシネマの普及に伴い、デジタルシネマプロジェクト(DCP)の販売で世界トップシェア[※]を誇るクリスティ・デジタル・システムズ(CDS)。実は、シネマ以外の用途でも、さまざまなプロジェクト技術を有しており、VR・シミュレーションやイベント・コンサートなどの大型映像、コントロールルーム、デジタルサイネージなど、多彩な用途で求められる、いわば「映像のトータルソリューション」を提供しています。



エッフェル塔 120周年記念の映像パフォーマンス(写真大)
と使用されたクリスティ製品(写真小)

※当社調べ

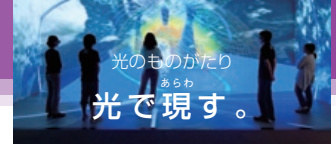
■ 世界規模のイベントを演出 —DLPプロジェクトの映像表現力—

感動的な映像表現で、スタジアムやイベント会場を沸かせるCDSの映像システム。プロジェクトによってもたらされる高輝度・高精細な映像演出は、単なるライトアップやモニタ映像では不可能な、幻想的でストーリー性の高い演出表現を可能にし、2010年のサッカーワールドカップの南アフリカ大会、そして今年10月に開催されたラグビーワールドカップ[※]などで活躍しました。



サッカーワールドカップ2010の会場(左)と閉会式(右)

※ラグビーワールドカップ2011開会式の模様(動画)は、以下サイトでご覧いただけます。
http://www.youtube.com/watch?v=VKOQ07B22_Y



■ 休まず見守る、監視システム

— 高精細リアプロジェクタとネットワーク技術 —

CDSの映像ソリューションは、華やかな映像演出だけではありません。私たちの知らないところで、プロジェクタを使用したコントロールルームや遠隔映像監視システムが活躍しています。警察署や電力会社、通信会社などでは、さまざまな場所に設置されたセンサーやカメラと集中管理室をネットワークで接続。各所の状況をリアルタイムに表示し、状況によっては緊急対応が求められるこれらのシステムは、365日24時間、故障なく高品質な映像を配信・表示できることが必須条件です。CDSでは、自社のプロジェクタ技術に加え、IT技術や周辺機器を組み合わせ、用途に応じた最適な映像ソリューションを提供しています。



NASDAQの株価表示システムにも採用

■ 必要な情報を、必要な人に

— デジタルサイネージの可能性 —

CDSが2010年に発表した、世界初のモジュラー型ディスプレイ「マイクロタイル」は、長寿命・省電力のLEDを光源に使用し、設置場所にあわせて自由に組み合わせで大きさや形状を変えることができる20インチの箱型リアプロジェクタです。通信ネットワークを利用することで、表示内容をリアルタイムに配信・変更できる上、視聴者の有無や人数などをセンサーで感知して表示内容を変えることもできるため、ビルの壁面やデパート、空港や駅ターミナル、銀行やホテルなどでの映像広告システム(デジタルサイネージ)として各方面から注目されています。



組み合わせて自由な大きさ、形状に



ロンドン証券取引所では、約500台が稼働

トピックス

神戸大学のシミュレーションデータ立体可視化装置「 π -CAVE (パイ・ケイブ)」

計算科学、新エネルギー、新薬開発、宇宙開発などの8つの「フラッグシップ・プロジェクト」が実施されている神戸大学。これらの最先端研究を推進するために、神戸ポートアイランドに建設された「統合研究拠点」内には、CDSがフルオーダーメイドでつくり上げた立体可視化装置「 π -CAVE」が導入されています。これにより、タンパク質の分子構造解析や、宇宙船の推進装置であるイオンジェットのイオン噴出シミュレーションなど、複雑なデータを直感的に理解できるようになり、各研究のより一層の促進が図られることとなります。また同拠点は、2011年6月につづき、同年11月にも世界第一位を獲得した次世代スーパーコンピュータ「京」と隣接しており、京で計算したシミュレーションデータの可視化にも利用される予定です。



株主の皆さまにおかれましては、
ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また、日ごろより格別のご支援を賜り、
厚く御礼申し上げます。
ここに、第49期中間(2011年9月)報告書「PRISM」
をお届けし、当第2四半期連結累計期間の
ウシオグループの事業環境や各事業の概況、
および今後の取り組みなどについて
ご報告申し上げます。

需要減退基調の中で増収減益へ

当第2四半期連結累計期間(2011年4月1日～2011年9月30日)は、国内では東日本大震災で被害のあったサプライチェーンの立て直しが進み生産が持ち直すなど、緩やかながらも回復傾向にあります。海外では、景気回復が非常に弱まっている米国経済、財政の先行き不安のある欧州経済に対し、アジア地域では中国やインドの内需を中心とした景気拡大もあり、総じて緩やかな景気回復が見られました。

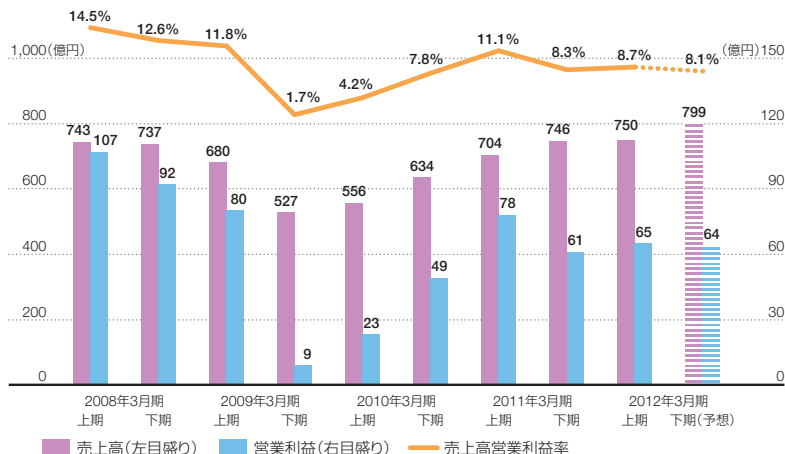
このような経済環境のもと、映像機器関連市場では、世界中でデジタル化や投資スキームの活性化もあり、デジタルシネマプロジェクタ(DCP)やシネマプロジェクタ用クセノンランプは引き続き堅調に推移しました。しかし、液晶・半導体市場では、生産調整に加えて一部で設備投資を抑制する動きが見られるなど、トータルな需要の減退が当社の業績に影響を与えました。

また引き続き、生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた販売体制の整備・拡充、海外生産シフトの促進など、全グループを挙げて業績の向上に注力した結果、売上高は前年同期比6.6%増の750億9千8百万円となり、営業利益は前年同期比17.0%減の65億6百万円、経常利益で前年同期比18.7%減の68億4千8百万円、四半期純利益で前年同期比20.9%減の45億6千4百万円となりました。

装置事業が売上高の62%に

セグメント別では光源事業で28億7千2百万円の減収となったものの、装置事業が72億3千万円の増収となり、売上高全体の62%を占めるまでになっています。装置事業の中でも映像機器の売上は全体の44%に達しています。DCPの販売台数は、おおむね前年同期比50%増という想定通りのスピードで伸長しており、加えてノンシネマ事業や、プロジェクタ用クセノンランプも好調でした。

半期業績推移



その一方で、液晶テレビやパソコンの需要の減速感が強まり、特に液晶パネルの価格下落は著しいものがありました。光学装置は、液晶業界の設備投資の見直しや延期という影響があり、光源事業では、液晶・半導体向けでお客様の製造ラインの稼働が低調であったため、UVランプが減収となりました。

今後の見通しについて

高水準の円高、米国景気の下振れ懸念、欧州の財政・金融問題、新興国でのインフレリスクなど、グローバルな景気減速の懸念があり、予断を許さない状況が継続するものと考えています。

今後は、映像機器関連市場においてはDCPやノンシネマ製品、シネマプロジェクト用クセノンランプが引き続き堅調に推移すると想定されます。しかし、液晶・半導体関連市場および電子部品関連市場においては、スマートフォンやタブレット端末などの需要拡大要素はあるものの、総じて設備稼働の低下や設備投資の抑制・先送りにより、露光用UVランプや光学装置の販売が減速する可能性があります。

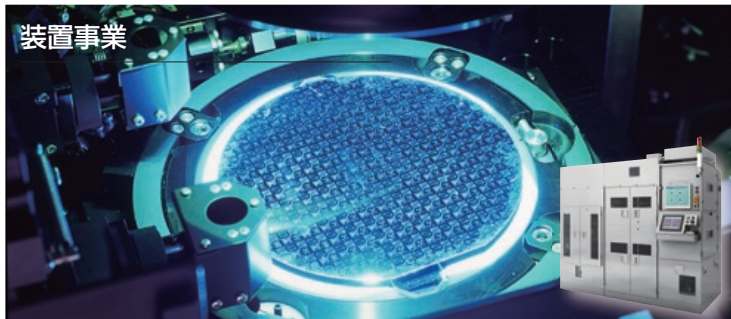
当社グループは重点事業である「映像・画像事業」「固体光源事業」「高密度実装事業」「露光事業」を中心に、強みである光源・光学技術を最大限活用した最先端分野での研究開発の推進など、生産・販売・開発の全てにわたり諸施策を鋭意推し進め、グループ全体のさらなる事業基盤強化を図っていきます。また、現在の厳しい市場環境に対応すべく、引き続き徹底した製造・管理コストの低減、新製品の開発や新規分野への用途開拓、新規事業の展開を積極的に進めます。

株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2011年11月
代表取締役社長・CEO

菅田史朗

セグメント別の概況



主な商品

露光装置、光硬化装置、光検査装置など光学装置

デジタルシネマプロジェクタ、コントロールルーム、シミュレータ、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステムなど映像機器

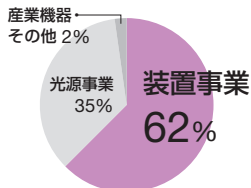
紫外線皮膚治療器、血管可視化装置など医療機器

次世代半導体リソグラフィ用EUV光源

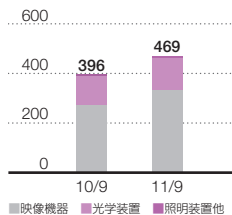
主要数値

売上高構成比

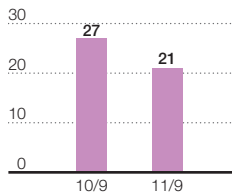
(2011年9月期)



売上高 (億円)



セグメント利益 (億円)



当期の業績

当期の装置事業の売上高は、前年同期比18.2%増の469億2千1百万円となりました。外部顧客に対する売上高のうち、装置事業が占める割合が62%となり、中でも映像機器の売上高が全体の44%を占めるまでになりました。セグメント利益は前年同期比21.5%減の21億8千1百万円となり、EUV光源装置をはじめとした研究開発投資が先行したため、装置事業の業績は増収減益となりました。

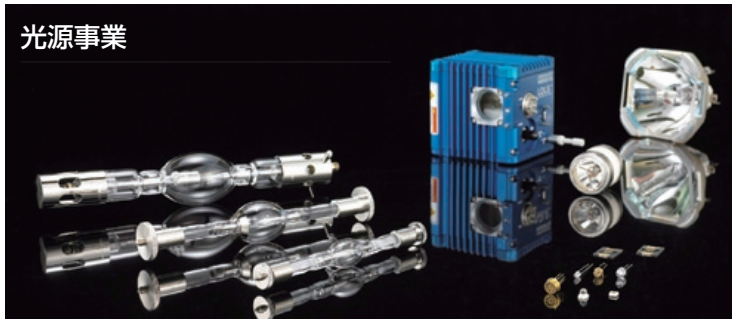
市場環境

映像装置分野ではデジタルシネマプロジェクタ(DCP)とともにノンシネマ製品も好調に推移しました。また、光学装置分野では液晶・半導体関連、LED関連、その他電子部品関連の製造装置の販売は堅調に推移しました。

2012年3月期の見通し

映像機器関連市場においてはDCPやノンシネマ製品が引き続き堅調に推移すると想定されます。しかし、液晶・半導体関連市場をはじめその他電子部品関連市場においては、スマートフォンやタブレット端末などの需要拡大要素はあるものの、設備投資の抑制・先送りにより、光学装置の販売が減速する可能性があります。

光源事業



主な商品

半導体／FPD／プリント基板製造装置用UVランプ

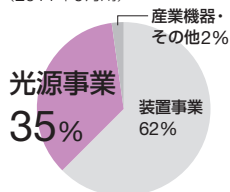
各種監視、生体認証、光センサ用などLED

照明用、データプロジェクタ用、シネマプロジェクタ用、OA機器用
など各種ランプおよびLED

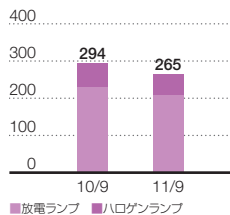
主要数値

売上高構成比

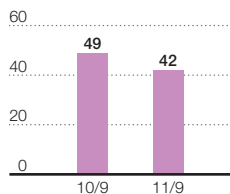
(2011年9月期)



売上高 (億円)



セグメント利益 (億円)



当期の業績

当期の光源事業の売上高は、前年同期比9.8%減の265億3千2百万円で、外部顧客に対する売上高のうち、光源事業が占める割合が全体の35%となりました。セグメント利益は前年同期比14.2%減の42億6千5百万円となり、光源事業の業績は減収減益となりました。

市場環境

映像機器関連市場の活性化によって、シネマプロジェクタ用キセノンランプは引き続き伸張しました。しかし、液晶テレビやパソコンの需要の減速感が強まったことから液晶関連顧客の設備稼働が悪化し、特に露光用UVランプのリプレイス需要が低調に推移しました。

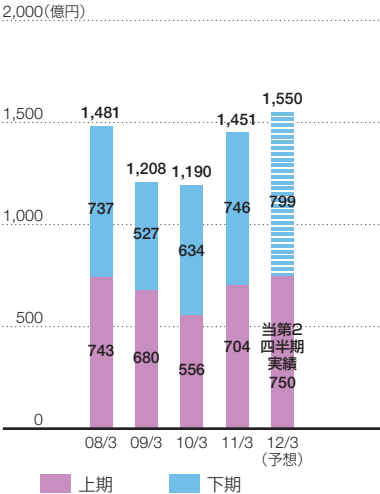
2012年3月期の見通し

シネマプロジェクタ用キセノンランプが引き続き堅調に推移すると想定されます。しかし、液晶・半導体関連市場をはじめその他電子部品関連市場においては、総じて設備稼働の低下により、露光用UVランプの販売が減速する可能性があります。

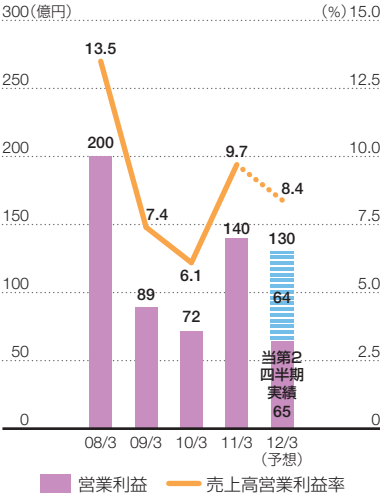
第49期第2四半期の事業概況

数字で見るウシオ (連結ベース)

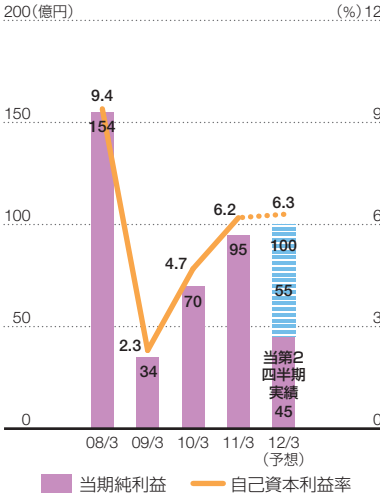
売上高



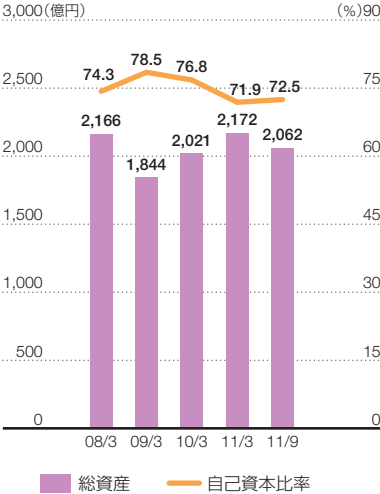
営業利益／売上高営業利益率



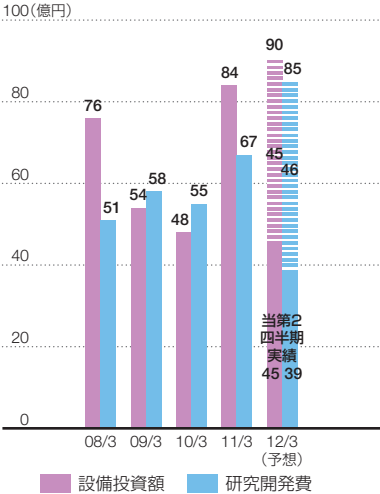
当期純利益／自己資本利益率(ROE)



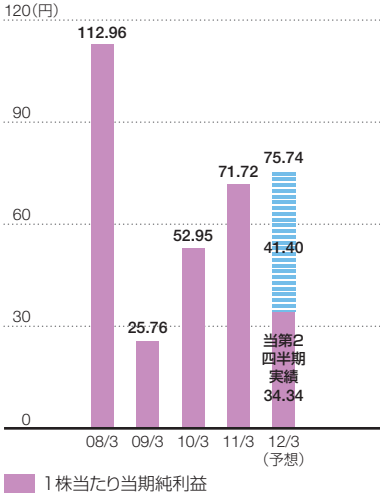
総資産／自己資本比率



設備投資額／研究開発費



1株当たり当期純利益



※数字はすべての表示数未満の位を切り捨てて記載しております。

ウシオ製EUV光源、中間集光点出力30Wを達成

非常に短い波長を持つEUV光源は、半導体リソグラフィにおける最後の光源といわれ、22nm世代以降の半導体製造に必要とされています。このほどエクストリームテクノロジーズ（ドイツ）は、量産化対応に必須であるデュエティサイクル100%の条件下で、中間集光点出力30Wを達成しました。また、開発用光源では、すでに中間集光点で100W相当の出力を確認しています。



LDP方式EUV光源外観

UV硬化型インクジェットプリンタ用LED光源を新発売

現在印刷技術は、車両ラッピングや店頭バーナー、電子カード印刷などの多岐にわたる特殊印刷へと展開されており、印刷業界では微小なインクを非接触かつダイレクトに塗布し、紫外線によりインクを速乾させるUVインクジェットプリンタの導入が増えつつあります。ウシオは、このUV硬化型インクジェットプリンタ用光源として、LED採用の新製品「UV-LEDモジュール」2機種を発売しました。光源をLEDにすることで環境保全に貢献するほか、生産性向上と印刷装置自体の小型化も可能にしました。

一括プロジェクションリソグラフィ装置UX4シリーズ 世界初、 $\phi 200\text{mm}$ ウェーハ対応の3次元実装量産向け「UX4-3Di FFPL 200」

大手LEDメーカにおいて採用されているUX4-LEDs、およびパワー半導体製造向けUX4-ECOに続くUX4シリーズの最新機種として、世界で初めて $\phi 200\text{mm}$ ウェーハに対応した3D LSIデバイス製造向け一括プロジェクションリソグラフィ装置UX4-3Di FFPL 200の販売を開始しました。一括プロジェクション方式では、ウェーハの大口径化がそのまま生産性の向上につながるため、高スループット・高歩留まりを可能にし、半導体パッケージ製造のさらなる生産性向上とコスト削減を実現します。



UX4-3Di外観

世界初、 $\phi 200\text{mm}$ ウェーハ対応の高輝度LED製造用「UX4-LEDs FFPL 200」

UX4-LEDsのプラットフォームに、世界で初めて $\phi 200\text{mm}$ の一括プロジェクションレンズを搭載したUX4-LEDs FFPL 200の販売を開始しました。毎時120枚という高スループットはそのままに、 $\phi 200\text{mm}$ ウェーハ対応を実現しています。

垂直構造高輝度LED製造向けレーザーリフトオフ装置「UX4-LEDs LLO 150」



UX4-LEDs共通プラットフォーム外観

優れた安定性能を持つレーザーと、リソグラフィ装置で実績のあるUV光学技術、搬送技術を搭載することで高い生産性と安定した品質を両立するレーザーリフトオフ*装置UX4-LEDs LLO 150の開発を完了しました。窒化ガリウム膜をサファイヤ基板全体から一度に剥がすことができるため、サファイヤ基板の再利用が可能となり大幅な製造コスト削減にも寄与します。

*レーザーリフトオフ: サファイヤ基板から窒化ガリウム膜を熱分解によって剥離する技術

貸借対照表(要約)

(単位: 百万円)

科目	第49期第2四半期 (2011.9.30)	第48期 (2011.3.31)
資産の部		
流動資産	127,979	130,730
現金及び預金	37,728	38,496
受取手形及び売掛金	31,166	34,300
有価証券	9,869	8,447
たな卸資産	38,945	39,507
その他	10,270	9,979
固定資産	78,275	86,561
有形固定資産	34,751	36,457
建物及び構築物(純額)	14,724	15,708
機械装置及び運搬具(純額)	4,784	5,441
土地	8,342	8,849
その他	6,899	6,457
無形固定資産	4,069	3,039
投資その他の資産	39,455	47,064
投資有価証券	37,400	45,134
その他	2,054	1,929
資産合計	206,254	217,292

総資産は2,062億5千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ110億3千7百万円減少しました。主な増加要因は、余資運用による「有価証券」の増加です。主な減少要因は、「受取手形及び売掛金」の減少、関係会社株式の売却及び株式市況の低迷による「投資有価証券」の減少です。

科目	第49期第2四半期 (2011.9.30)	第48期 (2011.3.31)
負債の部		
流動負債	36,712	41,458
支払手形及び買掛金	14,274	18,052
短期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)	6,232	7,361
その他	16,206	16,044
固定負債	18,628	17,966
長期借入金	5,907	4,922
繰延税金負債	6,764	8,277
その他	5,956	4,767
負債合計	55,341	59,424
純資産の部		
株主資本	154,158	155,544
資本金	19,556	19,556
資本剰余金	28,371	28,371
利益剰余金	118,458	116,831
自己株式	△12,228	△9,215
その他の包括利益累計額	△4,674	622
その他有価証券評価差額金	11,123	12,245
繰延ヘッジ損益	△0	-
為替換算調整勘定	△15,798	△11,622
少数株主持分	1,429	1,700
純資産合計	150,913	157,867
負債純資産合計	206,254	217,292

負債は553億4千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ40億8千3百万円減少しました。主な増加要因は、課税所得の増加による「未払法人税等」の増加であり、主な減少要因は「支払手形及び買掛金」の減少、株式市況が低迷したことによる「投資有価証券」の含み益の税金部分である「繰延税金負債」の減少です。

純資産は1,509億1千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ69億5千3百万円減少しました。主な増加要因は、当第2四半期連結累計期間に獲得した「利益剰余金」です。主な減少要因は、円高による「為替換算調整勘定」の減少、配当金の支払いおよび自己株式の取得です。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第49期第2四半期 (2011.4.1～2011.9.30)	第48期第2四半期 (2010.4.1～2010.9.30)
売上高	75,098	70,432
売上原価	50,431	45,871
売上総利益	24,666	24,561
販売費及び一般管理費	18,160	16,720
営業利益	6,506	7,840
営業外収益	2,029	1,949
営業外費用	1,687	1,364
経常利益	6,848	8,424
特別利益	2,973	9
特別損失	2,003	616
税金等調整前四半期純利益	7,818	7,817
法人税、住民税及び事業税	4,271	2,544
法人税等調整額	△1,171	△652
法人税等合計	3,099	1,891
少数株主損益調整前四半期純利益	4,718	5,926
少数株主利益	153	155
四半期純利益	4,564	5,770

液晶・半導体市場では液晶テレビやパソコンの需要の減速感が強まり、特に液晶パネルの価格下落は著しく、一部で設備投資を抑制する動きが見られましたが、デジタルシネマプロジェクトやシネマプロジェクト用クセノンランプは引き続き堅調に推移しました。その結果、売上高は前年同期比6.6%増の750億9千8百万円となりました。

生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた販売体制の整備・拡充、海外生産シフトの促進など、引き続き全グループを挙げて業績の向上に注力しましたが、営業利益で前年同期比17.0%減の65億6百万円、四半期純利益で前年同期比20.9%減の45億6千4百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、40億8千万円の収入となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益を78億1千8百万円計上し、減価償却費が34億5千2百万円発生し、売上債権が14億2千3百万円減少した一方で、たな卸資産が28億5千2百万円増加し、仕入債務が29億4千万円減少したこと、および法人税等の支払27億5千8百万円の支出によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、68億1百万円の収入となりました。主な要因は、定期預金の払戻し79億1千3百万円、投資有価証券の売却11億2千6百万円、および関係会社株式の売却75億円による収入と、定期預金の預入41億8千7百万円、有形固定資産の取得32億8百万円、および無形固定資産の取得14億3千5百万円の支出によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、52億6千2百万円の支出となりました。主な要因は、長期借入れ11億8千7百万円の収入と、配当金の支払29億3千7百万円、および自己株式の取得30億1千2百万円の支出によるものであります。

包括利益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第49期第2四半期 (2011.4.1～2011.9.30)	第48期第2四半期 (2010.4.1～2010.9.30)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,718	5,926
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,120	△3,266
為替換算調整勘定	△4,335	△5,422
持分法適用会社に対する持分相当額	12	2
その他の包括利益合計	△5,443	△8,685
四半期包括利益	△725	△2,759

キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第49期第2四半期 (2011.4.1～2011.9.30)	第48期第2四半期 (2010.4.1～2010.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,080	4,796
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,801	△3,279
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,262	△419
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,352	△1,604
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,266	△507
現金及び現金同等物の期首残高	34,954	28,595
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	94
現金及び現金同等物の四半期末残高	39,221	28,182

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (2011年9月30日現在)

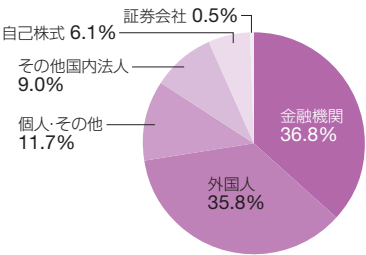
発行済株式総数 139,628,721株
株主数 14,408名

大株主の状況 (200万株以上)

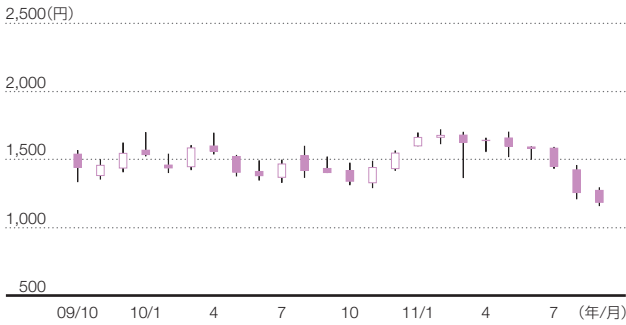
株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,976	6.42%
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,663	4.77%
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーション ビー リミテッド	5,647	4.04%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	5,092	3.64%
朝日生命保険相互会社	4,477	3.20%
アールービーシー デクシア インベスター サービスーズ トラスト, ロンドン レンディング アカUNT	4,438	3.17%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	3,964	2.83%
株式会社りそな銀行	3,616	2.58%
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	3,484	2.49%
ノーザントラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブ アカウント アメリカン クライアント	3,282	2.35%
牛尾治朗	3,201	2.29%
ジェービー モルガン チェース バンク 385174	3,075	2.20%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	3,049	2.18%
メロンバンク エヌエー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	2,491	1.78%
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71%
野村信託銀行株式会社 (投信口)	2,014	1.44%

※ 上記のほか、当社が所有している自己株式8,498千株があります。
※ 大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

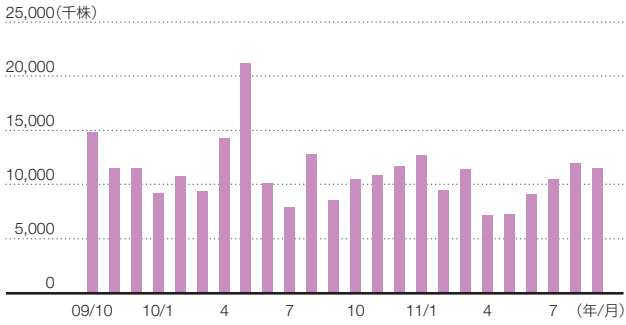
株式の分布状況



株価の動き



株式売買高



設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員 (2011年9月30日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
代表取締役社長	菅田 史朗
取締役	後藤 学
取締役	大島 誠司
取締役	浜島 健爾
取締役	多木 正
取締役	牛尾 志朗
取締役	多田龍太郎
取締役	伴野 裕明
取締役	徳廣 慶三
常勤監査役	中一 進
常勤監査役	中山 繁樹
常勤監査役	神崎伸一郎
監査役(社外)	服部 秀一
監査役(社外)	宮崎 靖亮
監査役(社外)	塩畑 一男

従業員数 (2011年9月30日現在)

ウシオ電機本体	1,792名
国内グルー プ計	516名
海外グルー プ計	3,103名
合計	5,411名

グループ会社 (2011年9月30日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪府大阪市

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社
兵庫ウシオライティング株式会社
筑波ウシオ電機株式会社
株式会社ジーベックス
株式会社ウシオスペックス
日本電子技術株式会社
株式会社エピテックス

他5社

海外グループ会社

北米

- USHIO AMERICA, INC.
- USHIO CANADA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
- CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
- NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.
- VISTA CONTROLS SYSTEMS, CORP.

欧州

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH
- Dipl.-Ing. Reinhold Eggers GmbH
- NATRIUM Sp. z o.o.
- XTREME technologies GmbH

アジア

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO SINGAPORE PTE LTD.
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.
- TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.

他11社

株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
基 準 日	3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
利益配当金受領	3月31日
株 主 確 定 日	なお、中間配当制度は採用しておりません。
公 告 掲 載 URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
1単元の株式数	100株
株式銘柄コード	6925
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電 話 照 会 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 0120-78-2031(フリーダイヤル)
同 取 次 窓 口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

住所変更、単元未満株式の買取などのお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行ないます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましては、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

発行：ウシオ電機株式会社 広報IR室

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1

TEL: 03-3242-1815 FAX: 03-3245-0589

<http://www.ushio.co.jp>

P R I S M PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するUSHIOの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝える情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。



PRINTED WITH
SOY INK

この印刷物は、環境に優しい用紙と、大豆インキを使用しています。